

令和4年度 専門職大学院法務研究科（法科大学院）（D日程入試）

憲法・民法・刑法

注意事項

以下をよく読んで、間違いのないように受験してください。

1. 試験開始の合図があるまで、問題を開かないでください。
2. この問題冊子の3~5ページに問題が掲載されています。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
3. 解答用紙は憲法につき1枚（そのI）、民法につき1枚（そのII）、刑法につき1枚（そのIII）、合計3枚です。解答用紙の追加は認めません。
4. 試験開始の合図があったら、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。
5. 解答は必ず解答用紙の所定の場所に記入してください。
6. 解答用紙には、黒鉛筆（シャープペンシル可）の他、黒または青の万年筆・ボールペンを使用してもかまいません。
7. 文字ははっきり、ていねいに書いてください。解答の文字が読みにくい場合、点を与えないことがあります。
8. 試験中、使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。

[このページは空白です。]

憲法（配点 100 点）

憲法は、地方公共団体に対し、「法律の範囲内で条例を制定する」権能を認めている（94 条）。これに關し、次の問い合わせに答えなさい。

（1）憲法上、法律に留保されている事項について、条例によって規制しうるか。具体的な論点を挙げながら論じなさい。

（2）法律（法令）と条例とが矛盾抵触した場合について、どのように考えるべきか。最高裁判例に言及しながら論じなさい。

民法（配点 100 点）

次の文を読み、問い合わせに答えなさい。

税理士である A はオンライン執務用に落ちついた環境がほしいと考え、マンション市場に詳しい B に安価な物件を探してもらっていた。B は以前取り扱い経験がある投資・節税用マンション甲が C により売りに出されていることを知った。B は甲を A に勧めたところ、A から甲の購入に関する代理権を与えられた。B は、甲の登記名義人である C のところに行き代金 8000 万円で売買契約を締結し、C から A に登記も移転した。しかしながら、甲は A・B の共通の知人である D の所有物件であり、節税対策のために一時的に登記を C に移転していたものであった。

【問い合わせ】

A はどのような場合に甲の所有権を取得できるか。必要であれば事実を補充し、場合分けをして説明しなさい。

刑法（配点 100 点）

暴力団員である X は、夜間、繁華街での飲食を終え、路上を歩いていたところ、対立している暴力団の構成員である A と出会った。X が A をにらみつけたところ、A が「失せろ。」などと言ったため、両名は口論となつた。

X は、いきなり A の顔につばを吐きかけると、その直後に走って立ち去つた。ところが、A は、「おい、待てや、こら。」などと言いながら、走つて X を追いかけ、50mほど先の路上で X に追いつくと、X の腕をつかんで立ち止まらせ、右手を振り上げた。

実際のところ、A は、近くを通りかかった仲間の暴力団員である B を見かけ、B を呼ぶために右手を挙げただけであったが、X は、喧嘩が強いことで知られている A に殴られるのではないかと思い、恐怖のあまり、所持していたナイフ（刃体の長さ 12cm）をポケットから取り出した。そして、X は、A の動きを止めようとナイフを示したところ、勢いあまってナイフを A の下腹部に刺してしまつた。

A は、病院に救急搬送され、緊急手術を受け、術後、容体は一旦安定したが、5 日後に、容体が急変し、腹部刺創に基づく化膿性腹膜炎により死亡した。なお、A の容体が悪化したのは、A が医師の指示に従わず、食事をしたり酒を飲んだことによって治療の効果が減殺されたことによるものであった。

X の罪責について論じなさい（特別法違反の点を除く）。

[このページは空白です。]